

問 1 一般用医薬品に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 一般の生活者が自ら選択し、使用するものであり、その役割の一つとして軽度な疾病に伴う症状の改善がある。
- b 一つの医薬品の中に作用の異なる複数の成分を組み合わせ含んでいる（配合される）ことが多い。
- c 生活習慣病等の疾病に伴う症状発現の予防（科学的・合理的に効果が期待できるものに限る。）には用いられない。
- d 開封の状態では保管された場合に、その医薬品の品質が保持される期限を使用期限という。

1 (a、b)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (c、d)

問 2 一般用医薬品に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 効果を早く得るためには添付文書に記載された用量よりも多く服用しても良い。
- b 通常は、使用を中断することによる不利益よりも、重大な副作用を回避することが優先されるので、副作用の兆候が現れたときには基本的に使用を中止する。
- c 習慣性・依存性のある成分を含んでいるものがあり、それらの医薬品が乱用されることがあるので、注意が必要である。
- d 一般の生活者がその選択や使用を判断するものであるから、必要以上の大量購入や頻回購入があっても、登録販売者は関与する必要はない。

1 (a、b)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (c、d)

問3 以下の医薬品の作用に関する記述について、( )の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

薬という物質、すなわち薬物が生体の生理機能に影響を与えることを( a )という。通常、医薬品は複数の( a )を併せ持つため、期待される有益な反応(( b ))以外の反応が現れることがある。( b )以外の反応であっても、特段の不都合を生じないものであれば、通常、( c )として扱われることはないが、好ましくないもの(有害事象)については一般に( c )という。

	a	b	c
1	副作用	主作用	薬理作用
2	薬理作用	主作用	副作用
3	副作用	薬理作用	主作用
4	主作用	薬理作用	副作用
5	薬理作用	副作用	主作用

問4 医薬品の相互作用に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 複数の医薬品を併用した場合に、医薬品の作用が増強することがあるが、減弱することはない。
- b 相互作用を回避するには、通常、ある医薬品を使用している期間やその前後を通じて、その医薬品との相互作用を生じるおそれのある医薬品や食品の摂取を控えなければならない。
- c かぜ薬や解熱鎮痛薬、アレルギー用薬などでは、成分や作用が重複することが多いが、通常、これらの薬効群に属する医薬品の併用を避ける必要はない。
- d 相互作用は、医薬品の吸収、代謝、分布又は排泄の過程で起こるものと、医薬品が薬理作用をもたらす部位において起こるものがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	誤	誤

問5 小児が医薬品を使用する場合に留意すべき事項に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 小児は大人と比べて、身体の大きさに対して腸が短いので、服用した医薬品の吸収率が相対的に低い。
- b 小児では、吸収されて循環血液中に移行した医薬品の成分が脳に達しやすいため、中枢神経系に影響を与える医薬品で副作用を起こしやすい。
- c 小児では、肝臓や腎臓の機能が未発達のため、医薬品の成分の代謝・排泄に時間がかかり、作用が強く出過ぎたり、副作用がより強くでることがある。
- d 小児用の用法用量が設定されていない医薬品を小児に服用させる場合は、成人の用量の半分を目安とする。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	誤	誤	正
5	誤	誤	正	正

問6 高齢者における一般用医薬品の使用に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 高齢者では、一般用医薬品の使用が高齢者自身の抱えている基礎疾患の症状を悪化させたり、治療の妨げとなることはない。
- 2 医薬品の使用上の注意等において「高齢者」という場合には、おおよその目安として65歳以上を指す。
- 3 高齢者は、生理機能の衰えのほか、喉の筋肉が衰えて飲食物を飲み込む力が弱っている（嚥下障害）場合があり、内服薬を使用する際に喉に詰まらせやすい。
- 4 高齢者では、医薬品の説明を理解するのに時間がかかる場合や、細かい文字が見えにくい場合があるので、情報提供や相談対応において特段の配慮が必要となる。

問7 妊婦及び授乳婦の医薬品の服用に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 胎盤には、胎児の血液と母体の血液とが混ざらない仕組み（血液－胎盤関門）があるが、母体が医薬品を使用した場合に、血液－胎盤関門によって、どの程度医薬品の成分の胎児への移行が防御されるかは、未解明のことも多い。
- b 便秘薬の中には、流産や早産を誘発するおそれのあるものがある。
- c 授乳婦が使用した医薬品の成分が乳汁中に移行することはない。
- d 一般用医薬品におけるビタミンCは、胎児に先天異常を起こす危険性が高まるとされているので、妊娠前後の一定期間に通常の量を超えて摂取すべきでないとしている。

1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問8 薬害の歴史に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a サリドマイド製剤は一般用医薬品の鎮痛成分として承認された。
- b サリドマイドの副作用として血管新生を妨げる作用があり、この影響を受けた胎児に四肢欠損や視聴覚の障害等の先天異常が発生した。
- c サリドマイド製剤による催奇形性が報告されて、日本ではすぐに販売停止及び回収措置が行われたため、その後の被害拡大が最小限に抑えられた。
- d 日本では、サリドマイド訴訟、スモン訴訟を契機として、1979年に医薬品副作用被害救済制度が創設された。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問9 医薬品のリスク評価に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 新規に開発される医薬品のリスク評価は、医薬品開発の国際的な標準化（ハーモナイゼーション）制定の流れの中で実施されている。
- b 非臨床試験における安全性の評価は、Good Vigilance Practice（GVP）に準拠して実施される。
- c ヒトを対象とした臨床試験における効果と安全性の評価基準には、国際的に Good Clinical Practice（GCP）が制定されている。
- d 医薬品の効果とリスクは、薬物暴露時間と曝露量との積で表現される用量－反応関係に基づいて評価される。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	正	正	正
3	正	誤	正	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	誤	誤

問10 医薬品の本質に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品は、多くの場合、人体に取り込まれて作用し、効果を発現するものである。
- b 医薬品は、人の疾病の治療のみに使用される。
- c 一般用医薬品には、製品に添付されている文書（添付文書）や製品表示に必要な情報が記載されている。
- d 医薬品は、人の生命や健康に密接に関連するものであるが、高い水準で均一な品質は保証されていない。

1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問 11 健康食品に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 「健康食品」という言葉は、健康増進や維持に有用な食品全般をさすものとして社会で広く使われている。
- b 健康食品は、法的にも、また安全性や効果を担保する科学的データの面でも医薬品とは異なるものである。
- c 栄養機能食品については、各種ビタミン等に対して「栄養機能の表示」ができない。
- d 特定保健用食品については、「特定の保健機能の表示」が許可されている。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	誤	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	正	正	誤	正
5	誤	正	正	誤

問 12 アレルギー（過敏反応）に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品の有効成分以外の薬理作用のない添加物ではアレルギーを引き起こす原因物質（アレルゲン）となることはない。
- b 普段は医薬品にアレルギーを起こしたことがない人でも、病気等に対する抵抗力が低下している状態では、医薬品が原因物質になりやすい。
- c 医薬品の中には、鶏卵や牛乳等を原材料として作られているものがあるため、それらに対するアレルギーがある人では使用を避けなければならない場合もある。
- d アレルギーには遺伝的な要素もあり、近い親族にアレルギー体質の人がいる場合に注意が必要である。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	誤	正	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	正	正

問 13 酒類（アルコール）をよく摂取する者では、アセトアミノフェンの十分な薬効が得られないことがある。この理由に関与する過程として最も適切なものはどれか。

- 1 溶解      2 吸収      3 分布      4 代謝      5 排泄<sup>せつ</sup>

問 14 医療機関で治療を受けている人等への配慮に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品を使用することによってその症状が悪化したり、治療を妨げられることもある。
- b 過去に医療機関で治療を受けていた（今は治療をしていない）という場合には、どのような疾患について、いつ頃かかっていたのかを踏まえ、情報提供がなされることが重要である。
- c 疾患の種類や程度によっては、一般用医薬品の有効性や安全性に影響を与える要因となることがある。
- d 登録販売者は、医療機関・薬局で交付された薬剤を使用している人に対し、その薬剤を処方した医師若しくは歯科医師又は調剤を行った薬剤師に相談するよう説明する必要がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	正	正	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	正	正

問 15 プラセボ効果（偽薬効果）に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品を使用したとき、結果的又は偶発的に薬理作用によらない作用を生じることをプラセボ効果という。
- b プラセボ効果は、医薬品を使用したこと自体による楽観的な結果への期待（暗示効果）や、条件付けによる生体反応などが関与して生じると考えられている。
- c プラセボ効果によってもたらされる反応や変化にも、望ましいもの（効果）と不都合なもの（副作用）がある。
- d プラセボ効果は、主観的な変化だけで、客観的に測定可能な変化として現れることはない。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	誤	誤	誤	誤
3	正	正	正	誤
4	正	誤	誤	正
5	正	正	誤	誤

問 16 医薬品の販売に従事する専門家の一般用医薬品販売時のコミュニケーションに関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 生活者のセルフメディケーションに対し、医薬関係者として支援していくという姿勢で臨むことが基本である。
- b 専門家からの情報提供は、単に専門用語を分かりやすい平易な表現で説明するだけでなく、どう理解されたかなどの実情を把握しながら行うと効果的である。
- c 購入者が、自分自身や家族の健康に対する責任感を持ち、適切な医薬品を選択して、適正に使用しようとするよう働きかけていくことが重要である。
- d 一般用医薬品の場合、必ずしも情報提供を受けた本人が医薬品を使用するとは限らないことを踏まえ、販売時のコミュニケーションを考える必要がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	正	正	正	正
3	正	誤	正	正
4	正	正	誤	誤
5	誤	誤	正	誤



問 17 次の 1～5 で示される薬物のうち、亜急性脊髄視神経症（スモン）の原因となったものはどれか。

- 1 アスピリン
- 2 ニコチン
- 3 キノホルム
- 4 カフェイン
- 5 アドレナリン

問 18 一般用医薬品の副作用に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 通常、眠気や口渇等の比較的良好に見られるものも副作用として扱われる。
- 2 副作用は、容易に異変を自覚できるものばかりではなく、血液や内臓機能への影響等のように、直ちに明確な自覚症状として現れないこともある。
- 3 医薬品の作用には未知の部分が多いが、十分に注意して適正に使用されれば副作用が生じることはない。
- 4 一般用医薬品の服用により、その添付文書に記載されている以外の副作用を引き起こすことがある。

問 19 以下の一般用医薬品の定義（薬事法第 4 条第 5 項第 5 号）に関する記述について、（ ）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

医薬品のうち、その効能及び効果において（ a ）作用が著しくないものであって、（ b ）から提供された情報に基づく需要者の選択により使用されることが目的とされているもの（要指導医薬品を除く。）をいう。

- | a        | b             |
|----------|---------------|
| 1 人体に対する | 医師及び薬剤師       |
| 2 人体に対する | 薬剤師その他の医薬関係者  |
| 3 副      | 医師及び薬剤師       |
| 4 副      | 薬剤師その他の医薬関係者  |
| 5 人体に対する | 医師及びその他の医薬関係者 |

問 20 医薬品の販売等に従事する専門家が購入者から確認しておきたい基本的ポイントに関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a その医薬品を使用する人が相互作用や飲み合わせで問題を生じるおそれがある他の医薬品や食品を摂取していないか。
- b 何のためにその医薬品を購入しようとしているか。
- c その医薬品を使用する人が医療機関で治療を受けていないか。
- d その医薬品を使用する人として、小児や高齢者、妊婦等が想定されるか。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	正	正	正	正
5	誤	誤	正	誤

問 21 次の表は、一般用医薬品のかぜ薬に含まれている成分の一覧である。このかぜ薬に含まれている成分に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

6錠中	
クレマスチンフマル酸塩	1. 34 mg
リゾチーム塩酸塩（リゾチームとして）	90 mg（力価）
ベラドンナ総アルカロイド	0. 3 mg
アセトアミノフェン	900 mg
ジヒドロコデインリン酸塩	24 mg
ノスカピン	48 mg
d l-メチルエフェドリン塩酸塩	60 mg
無水カフェイン	75 mg
ベンフォチアミン	24 mg

- a くしゃみや鼻水を抑えることを目的として、ノスカピンが配合されている。
- b クレマスチンフマル酸塩は、鼻粘膜の充血を和らげ、気管・気管支を拡げる作用を示す。
- c ベラドンナ総アルカロイドの副作用として、排尿困難が現れることがある。
- d リゾチーム塩酸塩は、炎症を生じた鼻粘膜や喉の組織の修復に寄与するほか、痰の排出を容易にする作用を示す。

1 (a、b)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (c、d)

問 22 解熱鎮痛成分に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 アセトアミノフェンは、中枢作用による解熱、鎮痛作用のほか、末梢における抗炎症作用が期待できる。
- 2 ピリン系の解熱鎮痛成分として、アスピリンやサザピリンがある。
- 3 一般用医薬品では、解熱鎮痛成分としてイブプロフェンを含有する小児向けの内服薬はない。
- 4 アスピリンにのみ発現する副作用として、「アスピリン<sup>ぜん</sup>喘息」がある。

問23 プロスタグランジンと解熱鎮痛薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a プロスタグランジンはホルモンに似た働きをする物質で、病気や外傷があるときに活発に産生される。
- b 解熱鎮痛薬による末梢でのプロスタグランジンの産生抑制は、循環血流量を増加させ、心臓に障害のある患者にとって症状の改善に役立つ。
- c 解熱鎮痛薬による末梢でのプロスタグランジンの産生抑制は、腎臓での血流量の増加につながるため、腎機能の改善に役立つ。
- d 解熱鎮痛薬は、発熱や痛みの原因となっている病気や外傷自体を治すものでなく、発熱や痛みを緩和するために使用される。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	正
5	正	誤	誤	正

問 24 解熱鎮痛薬の購入者に対する情報提供に関する以下の記述について、最も適切なものはどれか。

- 1 高熱時の体力消耗を抑えるため、必ず平熱になるまで解熱鎮痛薬の服用を続けるよう伝えた。
- 2 腹痛を含む痙攣性<sup>けいれん</sup>の内臓痛については、一部の漢方処方製剤を除き、解熱鎮痛薬の効果が期待できないことを説明した。
- 3 頭痛の発症には、頭痛が起こるのではないかという不安感も含め、心理的影響が大きいことから、症状が現れないうちに服用すると効果的であると伝えた。
- 4 15歳未満の小児に対し、インフルエンザ流行期に、解熱鎮痛成分としてエテンザミドを含む製品の選択を提案した。

問 25 抗ヒスタミン成分を主薬とする催眠鎮静薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 15歳未満の者には使用を避ける必要がある。
- b 慢性的に不眠症状のある人や、医療機関において不眠症の診断を受けている人を対象とするものではない。
- c 妊娠中にしばしば生じる睡眠障害も適用対象である。
- d ジフェンヒドラミン塩酸塩は、催眠鎮静薬以外の一般用医薬品や医療用医薬品にも配合されていることがあるので、併用に注意が必要である。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	正	正

問 26 主たる有効成分としてカフェインが配合されている眠気防止薬の購入者への情報提供に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a カフェインには、反復摂取により依存を形成するという性質があるため、服用は短期間にとどめ、連用してはならないと伝えた。
- b かぜ薬やアレルギー用薬などを使用したことによる眠気を抑えるために、眠気防止薬を勧めた。
- c 小学生の勉強時の眠気防止のため、眠気防止薬を勧めた。
- d 眠気防止の効果をより高めるため、お茶やコーヒーで服用するよう説明した。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	誤	誤	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	正	正	誤

問 27 鎮<sup>うん</sup>暈薬（乗物酔い防止薬）に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 乗物の運転操作をするときは、乗物酔い防止薬の使用は控える必要がある。
- b 乗物酔い防止薬には、主として吐きけを抑えることを目的とした成分も配合されているため、つわりに伴う吐きけへの使用も適当である。
- c 乗物酔い防止薬に3歳未満の乳幼児向けの製品はない。
- d ジフェニドール塩酸塩は、排尿困難の症状がある人や緑内障の診断を受けた人が服用すると、その症状を悪化させるおそれがある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	誤	誤
5	誤	正	正	正

問 28 鎮暈薬（乗物酔い防止薬）の代表的な配合成分に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 スコポラミン臭化水素酸塩は、内耳にある前庭と脳を結ぶ神経（前庭神経）の調節作用のほか、内耳への血流を改善する作用を示す。
- 2 メクリジン塩酸塩は、他の抗ヒスタミン成分と比べて作用が現れるのが速く持続時間が長い。
- 3 プロメタジンテオクル酸塩等のプロメタジンを含む成分は、外国において乳児突然死症候群や乳児睡眠時無呼吸発作のような致命的な呼吸抑制を生じたとの報告があるため、15歳未満の小児では使用を避ける必要がある。
- 4 ジフェニドール塩酸塩は、脳に軽い興奮を起こさせて平衡感覚の混乱によるめまいを軽減させるほか、乗物酔いに伴う頭痛を和らげる作用も期待される。

問 29 小児の疳を適応症とする生薬製剤・漢方処方製剤（小児鎮静薬）に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 配合される生薬成分は、いずれも古くから伝統的に用いられているため、作用が穏やかで小さな子供に使っても副作用は起こらない。
- b 用法用量において適用年齢の下限が設けられていない場合にあっては、生後3ヶ月未満の乳児には使用しないこととなっている。
- c 小建中湯しょうけんちゅうとうを乳幼児に使用する場合は、用法用量どおりに服用すれば、特に体格の個人差に留意する必要はない。
- d 小児鎮静薬を保護者側の安眠等を図ることを優先して使用することは適当でない。

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問 30 口腔咽喉薬、うがい薬（含嗽薬）に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 口腔咽喉薬の中には、鎮咳成分や気管支拡張成分、去痰成分を配合しているものがある。
- b 口内炎などにより口腔内にひどいただれがある人では、刺激感等が現れやすいほか、循環血流中への移行による全身的な影響も生じやすくなる。
- c トローチ剤やドロップ剤は、噛み砕いて飲み込むことにより、即効性の効果を示す。
- d 噴射式の液剤では、息を吸いながら噴射すると気管支や肺に入ってしまうおそれがあるため、軽く息を吐いたり、声を出しながら噴射することが望ましい。

1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問 31 咳や痰、鎮咳去痰薬の働きに関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a マオウは、鎮咳去痰薬に配合されることがある生薬成分であり、中枢性の鎮咳作用を示す。
- b 咳はむやみに抑え込むべきではないが、長く続く咳は体力の消耗や睡眠不足をまねくなどの悪影響もある。
- c 鎮咳去痰薬は、咳を鎮める、痰の切れを良くする、また、喘息症状（息が切れて、喉がゼーゼーと鳴る状態）を和らげることを目的とする医薬品の総称である。
- d 気道粘膜から分泌される粘液に、気道に入り込んだ異物や粘膜上皮細胞の残骸などが混じって痰となる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	正	誤	正	正
5	誤	正	誤	正

問 32 痰<sup>たん</sup>の切れを良くする成分（去痰<sup>たん</sup>成分）とその主な作用との関係について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a メチルシステイン塩酸塩 ————— 痰<sup>たん</sup>の中の粘性タンパク質を結合・高分子化して粘性を減少させる
- b グアイフェネシン ————— 気道粘膜からの粘液の分泌を抑制する
- c カルボシステイン ————— 粘液成分の含量比を調整し痰<sup>たん</sup>の切れを良くする
- d ブロムヘキシン塩酸塩 ————— 分泌促進作用・溶解低分子化作用・線毛運動促進作用を示す

1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問 33 第 1 欄の記述は、口腔咽喉薬<sup>くわう</sup>や含嗽薬<sup>そう</sup>として配合される成分に関するものである。第 1 欄の記述に該当する成分として正しいものは第 2 欄のどれか。

第 1 欄

口腔咽喉薬<sup>くわう</sup>や含嗽薬<sup>そう</sup>の配合成分として使用された場合であっても、ショック（アナフィラキシー）や皮膚粘膜眼症候群、中毒性表皮壊死融解症のような重篤な副作用を生じることがあり、また、鶏卵アレルギーの既往歴がある人では使用を避ける必要がある。

第 2 欄

- 1 トラネキサム酸
- 2 アズレンスルホン酸ナトリウム
- 3 グリチルリチン酸二カリウム
- 4 リゾチーム塩酸塩
- 5 ヨウ素



問 34 腸に作用する薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 下痢・便秘の繰り返し等の場合における整腸については、医薬部外品でも認められている。
- b 止瀉薬<sup>しや</sup>の配合成分としては、腸やその機能に直接働きかけるもののほか、腸管内の環境を整えて腸に対する悪影響を減らすことによる効果を期待するものもある。
- c 整腸薬の配合成分としては、腸内細菌の数やバランスに影響を与えたり、腸の活動を促す成分が主として用いられる。
- d 瀉下薬<sup>しや</sup>（下剤）の配合成分としては、腸管を刺激するもの、糞便<sup>ふん</sup>のかさや水分量を増すもの等がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	誤	正	正	正
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	誤	誤
5	正	正	正	誤

問 35 胃の薬の代表的な配合成分等に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 制酸成分を主体とする胃腸薬については、酸度の高い食品と一緒に使用すると胃酸に対する中和作用が低下することが考えられるため、炭酸飲料等での服用は適当でない。
- b 独特の味や香りがあるオウバクやケイヒ等の生薬成分が配合された健胃薬は、散剤をオブラートに包んで服用しても効果に影響はない。
- c 制酸成分のうちアルミニウムを含む成分については、透析療法を受けている人では使用を避ける必要がある。
- d 消化管内容物中に発生した気泡の分離を抑制することを目的として、ジメチルポリシロキサン（別名ジメチコン）が配合されている場合がある。

1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問 36 腸の薬の代表的な配合成分等に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 収斂成分<sup>れん</sup>を主体とする止瀉薬<sup>しゃ</sup>については、細菌性の下痢や食中毒のときに使用して腸の運動を鎮めると、かえって状態を悪化させるおそれがある。
- b ロペラミド塩酸塩が配合された止瀉薬<sup>しゃ</sup>は、主に食あたりや水あたりによる下痢の症状に用いられる。
- c ヒマシ油は、防虫剤や殺鼠剤<sup>そ</sup>を誤って飲み込んだ場合のような脂溶性の物質による中毒に用いられる。
- d ピコスルファートナトリウムは、胃や小腸で分解され、大腸への刺激作用を示す。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	正	正	誤	正
4	正	誤	誤	誤
5	誤	誤	正	誤

問 37 消化器官用薬（浣腸薬<sup>かん</sup>、駆虫薬）に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 浣腸薬<sup>かん</sup>は一般に、直腸の急激な動きに刺激されて流産・早産を誘発するおそれがあるため、妊婦又は妊娠していると思われる女性では使用を避けるべきである。
- b 注入剤（肛門<sup>こう</sup>から薬液を注入するもの）は、注入する薬液を人肌程度に温めておくと、不快感を生じることが少ない。
- c 一般用医薬品の駆虫薬が対象とする寄生虫は、回虫と鞭虫<sup>べん</sup>である。
- d 複数の駆虫薬を併用することで駆虫効果が高まる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	正	正	誤	誤
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	正	正

問 38 胃の不調を改善する目的で用いられる漢方処方製剤に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 六君子湯<sup>りっくんしとう</sup>は、体力中等度以上で、胃がもたれて消化が悪く、ときに吐きけ、食後に腹が鳴って下痢の傾向のある人における食べすぎによる胃のもたれ、急・慢性胃炎、消化不良、食欲不振に適するとされる。
- b 平胃散<sup>へいいさん</sup>は、体力中等度以下で、胃腸が弱く、食欲がなく、みぞおちがつかえて疲れやすく、貧血性で手足が冷えやすいものの胃炎、胃腸虚弱、胃下垂、消化不良、食欲不振、胃痛、嘔吐<sup>おう</sup>に適するとされる。
- c 安中散<sup>あんちゆうさん</sup>は、体力中等度以下で腹部筋肉が弛緩<sup>し</sup>する傾向にあり、胃痛又は腹痛があって、ときに胸やけや、げっぷ、食欲不振、吐きけなどを伴うものの神経性胃炎、慢性胃炎、胃腸虚弱に適するとされる。
- d 人参湯<sup>にんじんとう</sup>（理中丸<sup>りちゆうがん</sup>）は、体力虚弱で、疲れやすくて手足などが冷えやすいものの胃腸虚弱、下痢<sup>お</sup>吐、胃痛、腹痛、急・慢性胃炎に適するとされる。

1 (a、b)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (c、d)

問 39 高コレステロール改善薬の配合成分に関する以下の記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 大豆油不<sup>けん</sup>飽化物（ソイステロール）には、腸管におけるコレステロールの吸収を抑える働きがあるとされる。
- b パンテチンは、低密度リポタンパク質（LDL）等の異化排泄<sup>せつ</sup>を促進し、リポタンパクリパーゼ活性を高めて、高密度リポタンパク質（HDL）産生を低下させる作用があるとされる。
- c ビタミンEは、血中コレステロール異常に伴う末梢血行障害（手足の冷え、痺れ<sup>しび</sup>）の緩和等を目的として用いられる。
- d ビタミンB2は、コレステロールと結合して、代謝されやすいコレステロールエステルを形成するとされる。

1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問 40 動悸、息切れ、気つけに関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 心臓の働きが低下して十分な血液を送り出せなくなり、脈拍数を増やすことによってその不足を補おうとして動悸が起こる。
- b 心臓の働きが増強して体の各部への酸素の供給が過剰になると、呼吸運動を抑えて取り込む空気の量を減らそうとして、息切れが起こる。
- c 気つけとは、心臓の働きの低下による一時的なめまい、立ちくらみ等の症状に対して、意識をはっきりさせたり、活力を回復させる効果のことである。
- d 女性では貧血や、更年期に生じるホルモンバランスの乱れなどによっても動悸や息切れが起こることがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	誤	誤	正
4	誤	誤	誤	誤
5	誤	正	正	正

問 41 痔に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 痔核は、肛門に存在する細かい血管群が部分的に拡張し、肛門内にいぼ状の腫れが生じたもので、一般に「いぼ痔」と呼ばれる。
- 2 直腸粘膜と皮膚の境目となる歯状線より上部の、直腸粘膜にできた痔核を外痔核と呼び、自覚症状が少ないことが特徴である。
- 3 痔瘻は、肛門内部に存在する肛門腺窩と呼ばれる小さなくぼみに糞便の滓が溜まって炎症・化膿を生じた状態で、体力低下等により抵抗力が弱まっているときに起こりやすい。
- 4 痔の予防には、食物繊維の摂取を心がける等、便秘を避けることや香辛料などの刺激性のある食べ物を避けることなどが効果的である。

問 42 外用痔疾用薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 注入軟膏<sup>こう</sup>では、配合成分によってはその一部が直腸粘膜から吸収されて循環血流中に入りやすく、全身的な影響を生じることがある。
- b 局所麻酔成分のアミノ安息香酸エチルは、痔に伴う痛み・痒み<sup>かゆ</sup>を和らげることを目的として用いられる。
- c 組織修復成分のアラントインは、痔による肛門部の創傷<sup>こう</sup>の治癒を促す効果を期待して配合されている。
- d 殺菌消毒成分のタンニン酸は、痔疾患に伴う局所の感染を防止することを目的として配合されている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	正	正	正	正
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	正	正

問 43 泌尿器用薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ウワウルシは、経口的に摂取した後、尿中に排出される分解代謝物が抗菌作用を示すため、尿路の殺菌消毒効果を期待して用いられる。
- b カゴソウは、尿量増加（利尿）作用を期待して配合されている場合がある。
- c ソウハクヒは、尿量増加（利尿）作用を期待して配合されている場合がある。
- d 膀胱炎<sup>ぼうこう</sup>や前立腺肥大によって、残尿感や尿量減少が起こることがあり、その場合は、一般用医薬品によって対処することは適当でない。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 44 婦人薬に配合されている成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a エチニルエストラジオールは、妊婦でも使用できる。
- b トウキは、血行を改善し、血色不良や冷えの症状を緩和するほか、強壯、鎮静、鎮痛等の作用を期待して用いられる。
- c シャクヤクは、鎮痛・鎮痙<sup>けい</sup>の作用を期待して配合されている場合がある。
- d カンゾウは、抗炎症作用を期待して配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	正	正	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	誤

問 45 鼻炎用内服薬に配合されている成分に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 鼻粘膜の炎症を和らげることを目的として、グリチルリチン酸、トラネキサム酸が配合されている場合がある。
- 2 交感神経系を刺激して鼻粘膜の血管を拡張させることによって鼻粘膜の充血や腫れを和らげることを目的として、メチルエフェドリン塩酸塩が配合されている場合がある。
- 3 鼻汁分泌やくしゃみを抑えることを目的として、ベラドンナ総アルカロイド、ヨウ化イソプロパミドが配合されている場合がある。
- 4 鼻閉への効果を期待して、サイシンが配合されている場合がある。

問 46 点鼻薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ナファゾリン塩酸塩が配合された点鼻薬を過度に使用すると、逆に鼻づまり（鼻閉）がひどくなることがある。
- b クロモグリク酸ナトリウムは、花粉、ハウスダスト（室内塵）等による鼻アレルギー症状の緩和を目的として、通常、抗ヒスタミン成分と組み合わせて配合されている。
- c ベンゼトニウム塩化物は、ウイルスによる二次感染を防止することを目的として配合されている場合がある。
- d 一般用医薬品の鼻炎用点鼻薬の対応範囲は、急性又はアレルギー性の鼻炎及びそれに伴う副鼻腔炎であり、蓄膿症などの慢性のものは対象となっていない。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	誤

問 47 眼科用薬に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 一度に何滴も点眼することにより薬液が結膜囊に行き渡りやすくなるため、効果が増強される。
- b 点眼の際に容器の先端が眼瞼（まぶた）や睫毛（まつげ）に触れると、雑菌が薬液に混入して汚染を生じる原因となるため、触れないように注意しながら点眼する必要がある。
- c 点眼薬の使用では、全身性の副作用が現れることはない。
- d 一般用医薬品の点眼薬には、緑内障の症状を改善できるものはない。

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問 48 眼科用薬に配合されている成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ネオスチグミンメチル硫酸塩は、アセチルコリンを分解する酵素（コリンエステラーゼ）の働きを抑える作用を示し、目の調節機能を改善する効果を目的として用いられる。
- b テトラヒドロゾリン塩酸塩が配合された点眼薬を連用又は頻回に使用すると、異常なまぶしさを感じたり、かえって充血を招くことがある。
- c コンドロイチン硫酸ナトリウムは、結膜や角膜の乾燥を防ぐことを目的として用いられることがある。
- d スルファメトキサゾールは、主にウイルスや真菌の感染に対して用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	誤
4	正	正	誤	誤
5	誤	誤	正	正

問 49 外皮用薬に配合されている成分とその成分を配合する目的との関係について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a カプサイシン —— 末梢血管を拡張させて患部の血行を促す
- b 酸化亜鉛 —— 患部のタンパク質と結合して皮膜を形成し、皮膚を保護する
- c リドカイン —— 損傷皮膚の組織の修復を促す
- d ヘパリン類似物質 —— 創傷面からの出血を抑える

1 (a、b)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (c、d)



問 50 外皮用薬に配合されている成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a サリチル酸は、角質成分を溶解することにより角質軟化作用を示し、併せて抗菌、抗真菌、抗炎症作用も期待され、にきび用薬等に配合されている場合もある。
- b スルファジアジンは、角質層の水分保持量を高め、皮膚の乾燥を改善することを目的として用いられる。
- c 硫酸フラジオマイシンは、細菌のタンパク質合成を阻害することにより抗菌作用を示す。
- d バシトラシンは、皮膚糸状菌の細胞膜を構成する成分の産生を妨げることにより、その増殖を抑える。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	誤	誤	正
5	正	正	誤	誤

問 51 禁煙補助剤に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 禁煙達成のためには、原則として1年以上継続して使用すべきである。
- b 咀嚼剤そしやくを大量に使用することにより、禁煙達成が早まる。
- c うつ病と診断されたことのある人では、禁煙時の離脱症状により、うつ症状を悪化させることがあるため、使用を避ける必要がある。
- d 咀嚼剤そしやくの場合、炭酸飲料を摂取した後しばらくは使用を避けることとされている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	正
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	正	正

問 52 ビタミン成分とその主な働きとの関係について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ビタミンB1 ————— 夜間視力を維持する
- b ビタミンB6 ————— メラニンの産生を抑える
- c ビタミンD ————— 尿細管でのカルシウム再吸収を促す
- d ビタミンE ————— 体内の脂質を酸化から守る

1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問 53 防風通聖散ぼうふうつうしょうさんに関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 体力充実して、腹部に皮下脂肪が多く、便秘がちな人の高血圧や肥満に伴う動悸き・肩こり・のぼせ・むくみ・便秘、蓄膿症のう、湿疹しん・皮膚炎、ふきでもの、肥満症に適すとされている。
- b 効果的に使用するため、瀉下薬しゃとの併用が望ましいとされている。
- c 構成生薬としてカンゾウ、マオウ、ダイオウを含む。
- d まれに重篤な副作用として肝機能障害、間質性肺炎、偽アルドステロン症が起こることが知られている。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	誤	正	正	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	誤	誤	正
5	正	正	誤	誤

問 54 生薬に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ブシは、キンポウゲ科のハナトリカブト又はオクトリカブトの塊根を減毒加工して製したものを基原とする生薬で、心筋の収縮力を高めて血液循環を改善する作用を持つ。
- b サイコは、マメ科のクズの周皮を除いた根を基原とする生薬で、解熱、鎮<sup>けい</sup>痙等の作用を期待して用いられる。
- c オウゴン<sup>ほう</sup>は、サルノコシカケ科のマツホドの菌核で、通例、外層をほとんど除いたものを基原とする生薬で、利尿、健胃、鎮静等の作用を期待して用いられる。
- d 生薬成分は、医薬品的な効能効果が標榜又は暗示されていなければ、食品（ハーブ）として流通することが可能なものがある。

- 1 (a、b)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (c、d)

問 55 感染症と消毒薬に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 感染症は、病原性のある細菌、寄生虫やウイルスなどが体に侵入することによって起こる望ましくない反応である。
- 2 殺菌は、物質中のすべての微生物を殺滅又は除去することをいう。
- 3 消毒薬が微生物を死滅させる仕組み及び効果は、殺菌消毒成分の種類、濃度、温度、時間、消毒対象物の汚染度、微生物の種類や状態などによって異なる。
- 4 次亜塩素酸ナトリウムは、強い酸化力により一般細菌類、真菌類、ウイルス全般に対する殺菌消毒作用を示す。

問 56 殺虫剤に用いる成分とその分類との関係について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ジクロルボス \_\_\_\_\_ 有機リン系
- b ペルメトリン \_\_\_\_\_ ピレスロイド系
- c オルトジクロロベンゼン \_\_\_\_\_ カーバメイト系
- d プロポクスル \_\_\_\_\_ 有機塩素系

- 1 (a、b)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (c、d)

問 57 尿糖・尿タンパク検査薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 尿タンパク検査のための採尿は、激しい運動の直後は避ける必要がある。
- b 中間尿ではなく出始めの尿を採取することが望ましい。
- c なるべく採尿後速やかに検査することが望ましい。
- d 尿糖値に異常を生じる要因は、一般に高血糖と結びつけて捉えられることが多いが、腎性糖尿等のように高血糖を伴わない場合もある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	正
3	誤	誤	正	誤
4	誤	正	正	誤
5	正	誤	誤	誤

問 58 一般用医薬品の妊娠検査薬に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 薬局においてのみ取り扱うことが認められている製品である。
- b 尿中のヒト絨毛性性腺刺激ホルモン（hCG）を調べるものであり、通常、実際に妊娠が成立してから4週目前後の尿中hCG濃度を検出感度としている。
- c 検体としては、尿中hCGが検出されやすい就寝前の尿が向いている。
- d 経口避妊薬や更年期障害治療薬などのホルモン剤を使用している人では、妊娠していなくても尿中hCGが検出されることがある。

1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問 59 次の1～5で示される抗炎症成分のうち、ステロイド性抗炎症成分はどれか。

- 1 ヒドロコルチゾン
- 2 インドメタシン
- 3 ピロキシカム
- 4 サリチル酸メチル
- 5 ケトプロフェン

問 60 歯痛・歯槽膿漏薬に配合されている成分とその主な作用との関係について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a カルバゾクロム ————— 炎症を起こした歯周組織からの出血を抑える
- b 木クレオソート ————— 齧蝕を生じた部分における細菌の繁殖を抑える
- c ヒノキチオール ————— 知覚神経の伝達を遮断して痛みを鎮める
- d 銅クロロフィリンナトリウム — 歯周組織の血行を促す

1 (a、b)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (c、d)